

佐保会兵庫県支部だより

第 31 号

神戸市西区伊川谷町潤和1425-15
〒651-2124 TEL・FAX078-975-0063



興地 由紀子 (S29家食) 画

深緑のとき

思うこと

木岡 悦子 (S25家)

兵庫県支部に入ってからまだ十年に満たない私である。神戸にある女子大に永らく身を置きながら、お仲間入りもせずあたふたと過ごしていたことである。フリーになり、ひとり暮らしとなつてはじめてこの地、とりわけ六甲山の緑を味わうこともなかったことに気付いた。

現在、介護を受ける身ではあるが、周りの方のお支えもあって、昨年は数回にわたり六甲山のツーリズムを体験することが出来た。初めて知る喜びや驚きであった。

そのとき、「緑化百年」の冊子を手にして、これまでの並々ならぬ取り組みを知ることができた。

あの牧野富太郎博士が、瀬戸内海の海上から見た六甲山を「はじめは雪が積もっているのかと思った。」と六甲山の禿山のことを書き残されている。(明治十四年)

荒廃した山が今日の姿に至るまでには、幾度となく見舞われた災害への対策がなされてきたのである。山火事、大水害への砂防・治山事業など。このことをようやく私は実感するに至った。

阪神大震災の時には、樹木や森が災害から守ってくれたことを知った。

カシ・ヤブツバキ・クスノキなどの常緑広葉樹(照葉樹)のところで類焼が止まったり、崩壊が避けられていたことである。

鎮守の森が貴重なタイムカプセルであると、潜在自然植生を提唱し実際に森づくりをしてきた、宮脇昭博士に心打たれるこのころである。つい、ひとりごとを連ねてしまった。

賢明な支部会の諸姉には、それぞれ個性ある生き方をされていることと思う。支部長はじめ会員の皆様が築きあげられたこの会に、私はぬくぬくと席を温めてきたことを、改めて気付かされる。

最近思うことのひとつに、戦後のあの混乱期に、よくぞ私を奈良へ遊学させてくれたと、両親への感謝の念が沸く。そして母校、それに繋がる皆様とのご縁あってこそこの今である。

古い言葉ではあるが、これらのご恩にお返しをしたいと思うこの頃である。

支部会という組織は会員の交流の場であり、組織を通して世の人たちへお返しをしていく、そんな場でもある。出来ることは何か? そんなことを思ったりしている。

来年は神戸で環境サミットが開かれる。

「神戸の肺」とも言われる六甲山を抱えたこの地が、その生態系を保ちつつ、次世代へと繋げていく、その願いを持ちつつ人間サイドだけの一方的見方を見直すよき提案の場となるよう願うものである。

平成19年度 佐保会兵庫県支部総会

平成19年5月12日(土) 舞子ビラ神戸 五色の間

五月十二日、深緑の松林に囲まれていて、彼方に目をうつせば明石海峡大橋の曲線と直線が織りなす優雅な姿が飛び込んでくる。そんな舞子ビラの五色の間で総会が開催されました。七十名あまりの参加者でした。まずは物故者への黙祷がなされました。そして山本支部長の挨拶が続きました。支部の活動、会計などの議事が進行していきました。是非ほしいとの希望が多いということから平成二十年度に名簿が作成されることとなりました。卒後五五年のお祝いの記念品贈呈の後、秋里三和子さんのお話がありました。昭和二四年、新制大学への移行があり、女高師に残るか、大学に入るかが個人に任されたということでした。戦後の新しい歩みの息吹を感じとったように思いました。安田順恵さんの講演は、「遥かなるシルクロード玄奘三蔵の道」というものでした。それこそはつらつとお元気な方で、話の内容も圧倒されるものでした。六十歳を過ぎて社会人入学制度で奈良女子の大学院に入学し博士号を得たこと、そしてシルクロードに魅せられ、いまだにタクラマカン砂漠などを訪れているとのことでした。この遺跡の話は興味深いものでした。この八月十八日にも遺跡を訪ねることです。思いきりよく行動される姿勢に感服するのみです。来賓の管江謹一先生のご挨拶があ

卒業55年・卒寿のお慶び

《卒寿》

浅田 きよ 様 (理)
今井ふさ子 様 (家)
桑原 富美 様 (保)

《卒業55年》

吉岡美智子 様 (体)
柳田 和子 様 (理)
高島百合子 様 (理)
藤戸あゆみ 様 (幼教)
秋里三和子 様 (文)
上西 和子 様 (文体)
草野シナ子 様 (理)

2人

8人

りました。ご自分の近況などをまじえられ、味わい深いものを感じさせられました。本部からは佐保会館改修のための寄付金に対するお礼が述べられました。兵庫県支部からも友愛貯金から寄付したとのことでした。一度奈良を訪れ、あのゆったりとしたたずまいを見たいものです。最後に校歌を皆で合唱しました。

プログラム

1. 開会のことば
物故者に対し、黙祷
2. 支部長挨拶
3. 新入会員紹介
4. 議長選出
5. 議事
 - ① 平成18年度事業報告
 - ② 平成18年度会計報告
 - ③ 平成18年度会計監査報告
 - ④ 平成19年度役員承認及び紹介
 - ⑤ 平成19年度事業計画
 - ⑥ 平成19年度会計予算
 - ⑦ その他
6. 記念品贈呈
7. 講演
 - ① 卒寿のお祝い
 - ② 卒後55年のお祝い
 講師 文学博士 安田順恵
(S34 文地) 薬師寺管主夫人
演題 「遥かなるシルクロード玄奘三蔵の道」
憩い
憩い
8. 来賓の挨拶
9. 会食
10. 各部報告
 - ① 本部報告
 - ② 佐保短大報告
 - ③ 大学婦人協会
 - ④ 「樫(ゆずりは)の会」報告
 - ⑤ 「睦会」平成19年度担当者紹介
 - ⑥ 第31号「支部だより」編集委員紹介
11. 校歌斉唱
12. 閉会のことば

講演

遙かなるシルクロード

（玄奘三蔵の道）

安田 順恵氏

（S34文地・薬師寺管主夫人）



NHKで二十年前「シルクロード」が、そして二〇〇五年「新シルクロード」が放映されました。それらから自然は変わっていませんが人の生活が変わったと思います。シルクロードには狭義、広義いろいろあります。その終点つまり東は奈良あるいは九州であります。出発点の西はフランスのリオンあるいはローマ、中国、トルコ、イラン、アフガニスタンと観点によっていろいろであります。東西文化交流の道の象徴的表現としてのシルクロード

なのであります。陶磁の道、ガラスの道、紙の道、園芸の道など、「胡」は西域でありまして、胡瓜、胡桃、胡麻にそのなごりがあります。西域は仏教・美術では「さいいき」とよみます。仏教東漸の道、玄奘三蔵の通った道としてのシルクロード。これは長安（天山山脈）中央アジアを経てアフガニスタンからインドへの道です。彼が通過した現代の国々と首都は今、政治・経済・文化・民族上の問題をかかえたところが多くあります。シルクロードに翔る夢はいっぱいです。ここでは多様な取り組みがなされております。砂漠の緑化、石油開発、地下水脈の確認、砂漠公路の開通等。なかでもタクラマカン砂漠における遺跡の修復・保存・発掘調査には大いに関心をもっております。多くの遺跡のあるタリム盆地は、北は天山山脈、南は崑崙山脈に囲まれています。タクラマカン砂漠には砂漠公路があります。そこを砂漠車で走り遺跡を巡っていきます。貴重な遺跡が次々と発見されていきます。遺跡の一つに「有翼飛天画」があります。これは西域のモナリザといわれております。桜蘭小河墓遺跡には二百体のミイラがあります。玄奘が通った天山山脈ペデル峠は標高四三〇〇mですがそこへも行きました。この夏八月十八日から二十五日までこのあたりへの旅を計画しています。新疆ウイグル自治区文物局、西域南道、和田東方（エンデレ遺跡、ドモコ遺跡）を訪ねたいと思っております。

— 哀 悼 —

- 浅野 晶子 様 (S23 家) H18. 9. 20没
- 利根 弘子 様 (S32 文幼) H18. 10. 24没
- 小出 多知子 様 (S17 家) H18. 12. 3 没
- 前田 博子 様 (S20 臨家) H19. 2. 9 没
- 坂本 京子 様 (S28 理家健) H18. 12. 没
- 岩木 延子 様 (S 9 家食) H19. 3. 22没
- 有田 典子 様 (S39 家食) H19. 4. 13没
- 田中 可志子 様 (S19 理) H19. 4. 23没

平成20年度支部総会

平成20年 5月10日 (土)

シーサイドホテル
舞子ビラ神戸

山陽舞子公園駅
JR舞子駅 下車

平成19年度 新入会員名簿

学部	氏名	地区	学部	氏名	地区	学部	氏名	地区
文古代	平岡 恵理	小野市	理化	藤本 美咲	西宮市	生環アバ	寺本 由衣	芦屋市
文比歴	林 真希	尼崎市	理化	森 朱美	宝塚市	生環アバ	山本 賀津子	加古郡
文比歴	一ノ瀬 はづき	西宮市	理化	山中 あずさ	洲本市	生環文	山崎 由美子	灘区
文言情	木内 陽子	尼崎市	理化	長田 浩子	西区	経営福祉	三村 菜緒	中央区
文欧米	高崎 敦子	北区	理生	今城 佳余	西宮市	生環住	足立 朝子	西宮市
文教文	岡本 奈美	西区	理生	野村 理絵	尼崎市	生環住	二階堂 智子	西区
文教文	橘 知美	揖保郡	理生	橋本 未沙	中央区	生環住	藤澤 美幸	宝塚市
理数	高田 智子	宝塚市	理生	山西 陽子	川西市	生環住	森 菜摘	三田市
理数	野口 華苗	垂水区	理情	栃木 紅美	西区	博前人	河上 文	東灘区
理物	平井 珠生	宝塚市	生環健	石橋 香	東灘区	博前数	上村 恭子	明石市
理物	河東 礼子	長田区	生環食	竹内 優	尼崎市	博前環	新森 温子	東灘区
理物	生田 蘭子	東灘区	生環食	三 簾 恵梨	洲本市	博前数	山村 直子	加古郡

浅野晶子先生を偲んで

佐々木 廣子 (S 22年 臨家)



ネパール カトマンズ122
2001年12月

最近では佐保会館の修復の募金にも率先して、努力・協力をしておられた事を思い出す。また、佐保会員の入会事務や会員の卒業式への出席や祝詞等のため、度々奈良まで出かけておられた事等々、本当に自分の体を厭わず、社会的に活動しておられた。その為些細な自分の変化も見逃されたのではないかと案じても今では間にあわない。

最近先生が、神戸新聞等に投稿されたものを、退職後にまとめられた。暮らしをたがやす。という本を手にして、その多才な活動の一端を目にしよくこれだけ本務以外で活動しておられた事を知った。

その強い実行力と、一人一人への暖かい心遣いと人柄、説得力のある話術、広い視野と見識を通じての指導力、仕事に対する責任感と情熱は、本当にすばらしく畏敬の念でいっぱいだ。他の人の何十倍もいきてこられたと思う。先生と海外に京都のお墓へ一緒に参詣した事、帰りに食事をしておしゃべりを楽しんだ事など沢山心に残っている。折にふれて思い出し、これからの私の生き方の糧として、日々の生活に励みたいと思っている。あの「千の風になつて」の歌のように、あの大きな空をふきわたって、我々を見守つて下さっている様に思う。「ありがとう。おつかれさま。」と浅野晶子先生に捧げたい。

合掌

略年譜

- 昭和37年3月 / 昭和41年6月 神戸市社会教育委員
- 昭和37年10月 / 昭和46年9月 神戸市民生委員推薦会委員
- 昭和39年12月 / 昭和41年12月 神戸市生鮮食品流通問題協議会委員
- 昭和41年6月 / 昭和47年8月 神戸市消費生活安定対策協議会委員
- 昭和42年9月 / 昭和48年8月 神戸市消費者問題協議会委員
- 昭和42年1月 / 昭和44年1月 神戸市中央卸売市場食肉市場運営審議会委員
- 昭和39年8月 / 昭和63年 神戸市交通事業審議会委員
- 昭和45年6月 / 昭和57年9月 共同募金神戸市連合支会調査部会委員
- 昭和49年5月 / 昭和63年 神戸市下水道財政審議会委員
- 昭和45年11月 / 昭和48年10月 神戸市上下水道事業審議会委員
- 昭和52年4月 / 昭和55年3月 神戸市社会福祉審議会委員
- 昭和52年3月 / 昭和55年3月 神戸市消費者苦情処理委員会委員
- 昭和52年1月 / 昭和55年3月 神戸市資源リサイクルシステム調査委員会委員
- 昭和54年3月 / 昭和61年3月 神戸市同和問題市民啓発専門委員
- 昭和55年10月 / 昭和61年3月 神戸市保健医療計画審議会健康教育部専門委員
- 昭和52年9月 神戸市児童福祉審議会委員
- 昭和51年6月 / 昭和61年5月 兵庫県産業教育審議会委員
- 昭和54年11月 / 平成4年2月 神戸市婦人問題推進懇話会委員
- 昭和59年4月 / 財団法人村尾育英会評議員
- 昭和55年7月 神戸市行政改善検討委員会委員
- 昭和57年3月 / 神戸市商業活動調整協議会委員
- 昭和55年4月 / 神戸市市民相談室における婦人問題相談業務担当
- 平成元年3月 神戸市市民文化委員会委員
- 昭和63年1月 / 平成3年 神戸空港基本計画検討委員会委員
- 昭和62年11月 / 兵庫県大規模小売店舗審議会委員
- 平成4年1月 / 神戸市総合児童センター運営委員会委員
- 平成4年5月24日 / 神戸市教育委員会委員
- 平成3年4月1日 / 社会福祉法人神戸市社会福祉協議会評議会
- 昭和43年4月1日 / 財団法人兵庫県文化協会理事
- 神戸市生活指導研究会会長



校歌合唱



心のかけはし

はぐく
育む

内山 美智子 (S20理)

バスを待っていると、自転車にのつた男の子がやってきた。バス停の手前で自転車を下りて前を通りすぎた。

「あ、僕、靴の紐がほどけてる。」思わず声をかけた。男の子は邪魔にならない所に自転車をとめて、おぼつかない手つきで紐を結び、「ありがとう。」と言って自転車のりゆるやかな坂を上って行った。その日のコーラスの声ははずんだ。

毎年出生率の低下が報じられる中で、東灘区は住宅地のせい、赤ちゃんに出逢う事が多いように思われる。その澄んだ瞳に吸い込まれるように声をかけてしまう。若いお母さんにはこやかに「六ヶ月なんですよ。」と答える。私達の頃はそんなに早く外へ連れてでなかつたのにとその成長の早さに驚く。この汚れを知らぬ澄んだ瞳がどのよう

由はありません。

「奈良女子高等師範学校」なつかしいひびきです。

「ここに太陽を、くちびるにうたをもて」 私の大好きなことばです。

老婆は一日にしてならず

田藤 幸子 (S31家食)

私の履歴書は非常に煩雑です。戦争勃発と敗戦の国民学校、女学校は学制改革で高校併設中学校に、そして男女共学。さらに高校入学時には学区制で校名も校舎もない高校へ入学。施設面では二度もヤドカリ、軍隊の兵器庫跡、二階建バラック、講堂などの施設は皆無の六年間を経験。衣食住においても運動場でサツマイモ作り、イナゴの給食、女学校入学は緋のモンペ姿に下駄履き…(ホンの一例)

不自由・不安定・不確実―日本中がハングリ時代、心身両面で多感な育ち盛りの少年・少女でした。還暦過ぎのクラス会の席上、不思議なことに「むしろ幸せやったんと違うか」「あの頃が懐かしいなア」誰彼となく呟きました。逆境で得た好奇心・創造性・チャレンジ精神、もちろん本能的優しさと連帯感―「来年もまた逢おな」「ほんまにな」現在も合言葉。小学校・大学・寮友の集いでもお互いに感動

の素のお土産付きです。

教育現場ではかれこれ五十年。鈍い男性から「家事科」と野次られ、「家政学とは」と反発したことも。昭和六十年代に「生活学科」に改称。プロフェッショナルな生活者の育成を目標に、視聴覚機器やパソコンなどツールとした授業は「生活情報コース」に発展。家政学との縁は私の生き様の底力でした。もちろん学生に対しても「理論・知識だけでなく実践力・行動力と連携した教育」が理想でした。「鬼のタナビキ」がいつの日か仏になることを祈りながら―

井の中から出て十余年

日野 千恵子 (S32文英)

フルタイムの勤めをしていた頃は、一日の大半を勤務先で過ごすので、地域の人々との接触の時間が殆んど持てませんでした。

定年退職後、非常勤になって、やっと昼間の地域社会に身を置く余裕ができました。

まず、駅の観光案内所で、外国人に英語で案内するボランティアの仲間入りをしました。

月二回程度のこと、たいして役に立ってないのですが、私にとつては、社会の動きに接する小さな窓の一つとなっています。

電車に乗り降りする人々を見ていると、服装やマナーについては色々気になることがあります。最近、やたら肌を露出した服装の人が急増し、満員電

車で隣り合うことになる人が気の毒に思えます。

三年前、小学校でスクールヘルパーの募集があり、以来参加しています。孫達の年頃の児童達や教師となつてい

る昔の教え子の様子をそれとなく見守っていることのできるいい機会です。児童達は「ヘルパーさん、こんにちは」などと、愛想よく挨拶してくれま

す。問題なのは親御さん達のマナーです。校門でのインターフォンでの連絡、駐車場のルールなど、種々の約束事を無視して、注意されると暴言を吐く人がいたりです。

高齢者もPCで

コミュニケーション

村田 正子 (S32家食)

七十歳を過ぎて夫と私は老人ホームで暮らしているが、ここで体の弱ったお年寄りが時折、「淋しい」と洩らされる。もつともであろう。お年寄りに限らず、人の心は物では満たされぬ。心の通じる相手を求める気持ちはあつても、それは煩わしいこともある。

インターネットでは、メールやチャットで知らない人に心を開くことができ

るが、これは人との繋がりと言えるのだろうか。明石市に「PCサポートAA」というボランティアグループがあつて、明

石の高齢者のパソコン学習を無償で訪問サポートされている。サポートの先生も概ねシニア世代だから高齢者には温かく対応され、その知識・技術・経験を惜しみなく活かして教えて下さる。自宅のパソコンでマイペースで学べるのは、ありがたいことである。サポートをお願いした私たちは出来の悪い生徒であるが、この年でやりたいことができた時の喜びは大きく、先生も共に喜んで下さるので更に嬉しい。直接に言葉を交わすことで、心の和らくコミュニケーションも楽しめる。匿名性の高いネット社会で得られる共感や繋がりは、また別のものである。

障害を持っていても高齢になっても自立して生活を楽しみたい。そんな私たちを、より若い世代のPCサポートAAの方々が進んで支えて下さっている。コミュニケーションのかけはしは世代を超えて、支え、支えられていくのである。

困った時に

井上 桂子 (S33文教)

その日はウィークデーで、出勤時間帯から少しずれた時間だった。電車の中は割りに空いていた、といっても座席はほとんど人が座っていた。三宮に着いて降りようと出口に向った時、出口の手前で赤ちゃんを乗せた乳母車を押す母親と、母親のジーパンの膝あたりをしつかりと握っている三才にはまだなっていないであろう男の子がいた。母親は乳母車を降ろすのに一生懸命で、

男の子は母親の足の動きにつれてよたよたしていた。私は思わずその男の子を抱えて母親の足の動きと同時に通路におろした。その瞬間、母親から文句を言われるかと「はっ」と思い出した。子どもに対する様々な傷害事件から、子どもに声をかけても警戒される此の頃であることを。しかし、その母親は「ありがとうございます」と笑顔で言っていて、その男の子にも笑顔に向けた。その様子にはのほほとした気持ちを抱いてその場を離れた。

人が困っている様子に出会った時、どんな場合でもすぐに手助けをするとは限らない。実の所あまり面倒なことに関わりたくない、知らぬ顔をする場合が多い。それで大した事もなく過して来た。

しかし、自分が困った時はどうだろう。他人に援助を頼めるだろうか、あるいは無理遣り玉砕覚悟でやってしまおうだろうか。今、私は素直に援助を頼める自分でありたいと思うと共に、ここではこんな手助けをと、とっさの判断が出来る自分でありたいと思っ

最後のメッセージ

滝内 久美子 (S40文教)

私は今、要介護五の母の介護をしています。毎日デイサービスに通いながら、同居する弟のお嫁さんと、隣に住む私で世話をしています。母は何度も死の淵から生還しました。今は食事は経腸流動食、おしめをし、車椅子とベッ

ドで人生の最期をひっそりと生きています。母は一族の要として、私と弟の家族を支えてくれた賢い人でした。気楽に老後を楽しむ人が多い中、母は私達と苦勞を共にしてくれました。そしてこれからのいう時に、父に死に別れ自分も倒れました。私は母を見て、自分は子育てが終ったら自分の為に生きたいと思いました。私の息子達は各々二人の男の子の親になっていますが、母が死の淵に立つた時に、涙をみせ必死に医学面で支えてくれました。弟の嫁達も優しく支えてくれます。デイサービスでも本当に愛されて世話して頂いています。母が入院の最低の状態になっても家族やデイサービスの方々に、これだけ大切にしてくるのは、因果応報というか、人間は自分が使ってきた心通りの心を返されるのだということ。そして尊敬する師の教えの通り、家の中で大切にすると外でも大切にされるということ。今は真実であると実感しています。心は時間と空間を越えて交流する。家族や人様のためにという生き方が実は、自分の為に生きるということであるということ。物言えぬ母の最後のメッセージとして、心深く受けとめたいと思います。

生涯・消費・生活スタイルを

持続可能なものに!

芝 美代子 (S43理化)

一九九七年京都議定書の採決から十年。ようやく地球温暖化の原因がCO₂の増加にあると、世界が認め始めまし

た。アメリカではバイオエネルギーの生産増加に拍車がかかり、公害たれ流しと言われている中国も何とか排出ガス規制への意思表示を始めました。ブラジルでは国内全ての車をエタノールで走らせ海外への輸出もめざして、原料のサトウキビを急増産しています。そのため、森林破壊や数年後の土地の疲弊が危ぶまれます。また、アメリカのバイオマスエネルギー政策次第で穀物の高騰も懸念されずでに影響も出始めています。なぜ、右へ倣えとばかりに全てがメジャー化するのでしょうか? これからは地域で地域のエネルギーを考える時代です。三木で、播磨で、兵庫県でと地域に見合ったグリーンエネルギー(バイオマス、太陽電池、風車等)に取り組み、地方行政、企業、JA、営農家、ボランティアが英知を結集して考えていくべきではないでしょうか。又、我々個人としても生活スタイルを持続可能なものに改革する必要があります。更には、学校における環境教育の実践、地域における環境を考慮した街づくり等も重要な事だと思えます。

親が教えるもの

谷本 彰子 (S49文英)

私の母は病氣と闘っている。三月に倒れて以来、声を聞かなくなっ

月半、目を開けることもないので、本人の闘っているという意識は確認できない。担当医から病気の説明は受けているので、きょうだいと家族は落ち着いて対応しているつもりだ。

母が経口で食事を摂ることができた入院初期は、一生懸命食べさせた後、きょうだいで何回か夕食を共にした。「こんな時に一緒に食事ができるとはなあ」と言いつつ、別の意味で、きょうだいがゆっくと話ができることを喜んだ。

それぞれに勤めがあつて、毎日が忙しく、お互いにゆっくと話をする暇がないのが実情だ。しかし、生きている限り、どこかで心が繋がっている、と思つて暮らしている。そして、私達の親、私達、私達の子へと命が繋がっているのだ、と日々感じていることが、今の私の喜びでもある。

正直なところ、子供が独り立ちする年令になつて、私にはようやく過去と現在と未来が繋がるようになった。親もこのように思つて暮らしてきたのだろうと考えられるようになった。日々の積み重ねがあつて、人生が意義あるものになるのだと、改めて感じているところである。

私の父も夫の母も、実は病氣と闘っている。正に今、親に人生を教えてもらっているところだ。

心と体の栄養は台所から

高馬 洋子 (S60家食)
毎日のニュースを見ていると、子供

が健全に育つのが難しい世の中になってきているような気がする。私達が育つた環境とは違って、悪影響を及ぼす商品が巷に氾濫している。「みんな元気に病んでいる」という。笑うに笑えないタイムトルの本が数年前に出版されたが、まさにそんな事態を肌で感じる有様だ。これは、よほど親がしっかりと子育てしていかなければ、とんでもない世の中になってしまふと親としての責任に重さに、身の引き締まる思いがする。

「うちは、質より量で子供を育てています。」と冗談まじりに言つて話のネタにする、四人の子供がいる。親に似たのか、よりにもよつてそれぞれ超個性的で、少々親泣かせな子供達である。決して女らしいとは言えない私に、四人も授けて下さつた事にとても感謝している、仕事を持ちながらの子育ては、決して楽ではなかつたが、そんな大変さが私を成長させてくれたと思うし、今では子供によつて、もう一度青春を擬似体験させてもらえる様にもなつて、楽しんでる。

子育てにあたっては、何よりも食事を大切にしてきたし、又食卓のコミュニケーションも、子供の日常生活を知る上で、大切にしてきた。働く女性が増えて、お袋の味がふくろの味になつてしまつたと言われるが親元についてくれるわずかの間こそ、お母さんの味をすり込んで大きくしてやりたい。きつとそれは五感に染み込んで、子供の次の世代にも生きていく様に思う。

平成19年度 もより会 地区リーダー

東灘区	平井 通恵 S47家被	058-844-8000	明石市	寺田 翠 S37文幼	078-311-2222
	小蒲 恵子 S49理物	058-822-0600		橋本 陽江 S50理修化	078-311-2222
灘 区	木村 康子 S35理数	078-811-8700	加古川市	永田登喜代 S45理数	078-622-1111
	神木 康代 S36文史	020-955-7777	高砂市		
中央区	松原 秀江 S46文修国	078-671-1100	加古郡	田中 明子 S43文幼	078-671-1100
兵庫区			三木市	森本 寿美 S49理化	078-671-1100
長田区	水山 在熙 S45家住	078-961-0070	加東郡		
北 区	長岡三佐子 S34文国	058-256-1135	多可郡		
	佐々木智子 S43文教	078-541-1111	西脇市		
須磨区	光上記久子 S35文幼	078-236-6222	小野市		
	大橋 節子 S41文英	020-265-2222	加西市		
垂水区	松浦 博子 S36家食	078-735-8000	美囊郡		
	大田奈緒美 S37理化	078-285-2768	姫路市	林田 利枝 S45文史	078-421-1467
西 区	山中 邦子 S53文英	058-001-6209		出田美栄子 S45文教	078-421-2222
	新小田淑子 S59理化	078-661-0111	相生市		
尼崎市	辻本 久代 S40家食	07-7789-0172	赤穂市		
	山城 隆子 S40家食	07-7789-0172	赤穂郡		
西宮市	永吉 和子 S34理化	078-012-0203	佐用郡		
	北川 清子 S40家食	0208-18-1100	たつの市		
芦屋市	山崎 渺美 S39文教	078-27-5717	飾磨郡		
	福井千佳子 S40理化	0202-00-2222	宍粟市		
伊丹市	都築 暎子 S37家食	056-256-5105	但馬地区	米田 純子 S40理動	078-421-2222
	建林 章子 S38家被	020-228-2211	三田市	河野 薫子 S41理化	078-421-2222
宝塚市	高尾知佐子 S57文修社	020-222-2211	篠山市	小林 嘉子 S37家被	078-421-2222
	筑木真由美 S59理生	020-222-2211	氷上郡	足立 瑞穂 S42家修食	078-421-2222
川西市	川田 多栄 S45家住	078-735-8000		廣内 保子 S44理植	078-421-2222
	磯部富佐子 S53理生	020-222-2211	淡路地区	由井 弥生 S42家被	078-421-2222
川辺郡					

楳 (ゆずりは) の 会

平成20年 年間行事予定

月 日	内 容	会 場	時 間	講師(敬称略)	備 考
2. 28 (木)	手 芸 (ティッシュボックスカバー)	神戸市勤労会館	13:00~15:00	都筑久美子	手芸用具
3. 27 (木)	お話 (知っておきたい生活情報)	神戸市勤労会館	13:00~15:00	専門講師	
4. 24 (木)	文学散歩 (平家物語と兵庫津)		J R兵庫駅 10時集合	岩城 尚子	
5. 22 (木)	新緑を訪ねて (バスツアー)	長谷寺・室生 寺・佐保会館	三宮東急イン前 8:30集合		費用7,000円
7. 24 (木)	食文化 (夏の料理実習)	生活創造セン ター4階	13:00~15:00	織部ミチ子	費用1,000円
9. 25 (木)	古典鑑賞 (平家物語)	神戸市勤労会館	13:00~15:00	林 茂代	
10. 23 (木)	美術鑑賞	神戸市立 博物館	13:00~15:00	学芸員	解説付き
11. 27 (木)	書道 (万葉仮名)	神戸市勤労会館	13:00~15:00	川口登美子	小筆・半紙

※入会は随時、佐保会員以外の入会も歓迎
 ※会費：年間1,000円、当日のみ参加：300円

平成19年度 運営委員

鈴木 久子 (神戸市立中央図書館) 寺田 翠 (神戸市立中央図書館) 三枝 瑤子 (神戸市立中央図書館) 西池 節子 (神戸市立中央図書館)
 川口登美子 (神戸市立中央図書館) 射延 瑞枝 (神戸市立中央図書館) 大塚かよこ (神戸市立中央図書館)

「楳の会」に参加して

大塚 かよ子 (S44文幼)

在職中に支部だよりが届けられる度に、「楳の会」に心を寄せて読ませていただいております。退職後、一定した家事の生活から勇気を出して一歩、足を運んだのが「楳の会」でした。初回は戸惑いと不安の中で受講しました。何んと、先輩の方々の「ようこそ」という温かい雰囲気、「参加してよかった」という安堵の気持ちで一杯でした。年間十回の文学、食生活、芸能鑑賞、バス旅行等、様々な企画の中で、気楽に学べる交流の場であります。広い分野で最新の情報や知識を得ることも、心の宝ものが増えた様で嬉しくなります。これからは「楳の会」でよい刺激も受けて、「いつまでも健やかに美しく心豊かに」歩んでいきたいと思っています。

丹波もより会について

足立 瑞穂 (S42家修食)

丹波・篠山・三田の三市が、輪番制で幹事となり、合同のもより会の集まりをしております。昨年は、丹波市の計画で、石籠寺(聖徳太子創建・南大門の木彫仁王像は定慶の作で国指定重要文化財)もみじ祭を見学しました。その後、S四十四理数卒業の三角さま(田舎に引越されて三年が経過)のお宅、名付けて小野尻庵にて手作りのほたん鍋を会食しました。同じ奈良の地で学んだ縁は、温かく有難いもので、話は尽きずたくさんのパワーを頂くことが出来ました。おそまつ二首

東向北商店街ベニヤ書店西口かつお店様
 かしずき
 今も昔も百日紅燃ゆ夏の奈良クラーも
 なかった学舎の話

平成十八年度「睦会」報告

藤岡 利子 (S38家被)

第三十一回睦会を、十一月四日(土)出席者三十八名、舞子ホテルに於いて開催致しました。百歳過ぎの大先輩から新入会員の方まで、爽やかな秋の一日を会食と欲談で過ごして頂きました。

自己紹介の後、レクリエーションでは、思い出の「日本の童謡・唱歌」をCDの伴奏で合唱しました。

諸先輩の、お年を召すほどに、お洒落で、お話し上手で、かくしゃくたるお姿には、いつも何か啓発される思いがします。「睦会に出かけると若返った気がするね」というのが、私達当番の多くの感想でした。

なお、会費の残金の一部を佐保会館改修に寄附させて頂きました。

もより会

西宮地区「もより会」便り

永吉 和子 (S34理)

二〇〇五年秋、西宮北口にオープンした兵庫県立芸術文化センターでは、より多くの人々に親しんでもらおうと、ワンコインコンサートが企画されています。これは五百円で一時間程のコンサートを聞くことが出来るのです。昨年十二月大フィルに在籍し、チェロの首席奏者だった林裕のコンサートを、心ゆく迄堪能し、センターの中にある神戸北野クラブ経営の「イグレクト」でランチを戴きました。「次回もぜひ」と要望される程の好評を得ました。しかし参加者はいつもの様に少なく八名でした。魅力ある「もより会」と考えた今回でしたが早くからのチケット購入、直前のキャンセルもあり、この種の企画の大変さも体験しました。

文芸広場

老いの日日

苦瓜 恒子 (S15文)

やはらかな鉛筆の芯 走り梅雨
生国は播州ですと友の秋

青芒切らるるならばこの薄刃

父と遺著曝す役目のありしかな
読み了へし雑書積み上げ晩夏光

西の京

古川 起子 (S35文)

西の京雪のちらつく日となりぬ

枯るる中月光菩薩立ちおはす

お身拭如來の膝に足かけて

料峭やあそび足され親世音

春風や船の故郷はポルトガル



春

東 昌子 (S19文)
修二会近づく古都の町筋ふるき
菓舖に「のりこぼし」並ぶ頃にかあらむ

また会はむ約束交はしがたければ

語らひ尽きず文科の集ひ

折々の花にこころを遊ばせて

わが歳月の彩もとどりどり

花愁三首

川口 志ほ子 (S19文)

城の天主をめぐり風立ち人も我も

しばし捲かる、夕花吹雪

花を仰ぐかなしみを知り

花を仰ぐよろこびを知り

人ここに老ゆ

たましひは 我が右肩に ひっそりと

来るよと おもふ 花のかはたれ

春行く

平井 惠美 (S19文)

たゆたひてまくら色なる夕もやの

しばらくを 白き入日なりけり

嬉々として赤つ枝は朝の風を呼び

花紫木蓮揺る 四月尽

花いくつ揺りては去ぬる風のゆくへ

追ふとにあらず倚れる半纏木

名簿作成にあたって

支部長 山本 よしみ

平成十五年八月に名簿が発行されて四年が経過した。五年目に発行する予定で積立金が準備されている。しかし、すんなり発行に踏み切っていないものかと思案が脳裏をかすめる。

個人情報保護法が平成十七年四月に施行された。個人情報の流出による問題が浮上している。そして、学校はじめ様々な団体の名簿が消えた。名簿が売買されて、縁もゆかりもない人から電話がかかってきて不安にかられた。その様な状況も落着きをみせ、個人の責任によってプライバシーはともかく守られている。六月十二日のニュースは個人情報保護法に対する過剰反応による問題が発生していることを受けて、部会で三年目の検討をすると報じた。

昨年八月名簿作成について地区リーダーにアンケートの集約を依頼した。数値で表すことは出来ないが、賛否・中立の三点は、ほぼ互角の意見が返ってきた。その意見集約を元に、四月五日の役員会で審議した。全員から時間一杯意見が出された。その結果は名簿の必要性和意義を大切に思う意見が圧倒的であった。会員の皆さんの自覚とお互いの信頼関係を支えに名簿発行に踏み切る事となった。総会に提案して承認された。

十一月原稿を依頼、十二月末までに名簿原稿を返送、平成二十一年十一月配布の予定。

会員皆様の熱意ある協力を願う。返送方よろしく。

明石からの発信

イメージ都市明石

『源氏物語』文学遺跡

平井 恵美 (S19文)

播磨の城下町明石は楽しい都市だ。市の内外に今も遺る『源氏物語』明石巻の文学遺跡?! 曰ク、物語の主人公光源氏屋敷、曰ク、彼のパトロンの前播磨守明石入道館、曰ク、光の賞でた月見池……など。明石の人は架空の物語を实地にあてはめて楽しんだのであろう。

「ほんまにここに源氏がいったと思うお年寄り」「光源氏と歌聖人麻呂と、強力な二本柱を得た明石のイメージはそれ自体が生み出した結晶作用で次第に大きく幅広くなってゆく。イメージ都市のハシリといえよう」(兵庫探検絵集編・一九五六年神戸新聞社刊)

遺跡の一つ、『源氏物語』は明石川下流の大観町無量光寺辺をいう。周辺の宿(神戸市西区榎谷町)の入道娘を光が妻問うた道だ。しかし物語の本文には葛も細道も現われず、入道は光のために「御車は二なく作」った。そんな豪華な車は、雑草の細道を通れまい! 『源氏物語』のルーツは伊勢物語九段にある。落魄の貴公子、六歌仙の在原業平は、東下りの旅中、駿河の宇津の山で嘆く。葛かえでが茂る細く暗い恐ろしい道で! この業平の俳句、京を、すてて播磨へ下った漂泊者光に重ねて、明石の『源氏物語』が編み出されたのか。

十七世紀半ば頃の明石藩主松平忠國。文学好きの殿様で、あちこちの遺跡にわが歌碑を建てた。あの榎谷にも。い

つ、誰が、こんな楽しい遺跡を創ったかわからぬが、その仕掛人でないにせよ、彼は宣伝に一役買っている。

けれども、定国は、常時、王朝絵巻の夢を追った人ではない。新田の開発や用水路の開削など藩を潤し、死後も道覚さんと、領民から慕われたのである。道覚は定国の法名の中の言葉で、明石市大久保町松陰新田の大林寺にその位牌がまつられている。

魚の棚商店街

村田 正子 (S32家食)

明石で水揚げされる新鮮な魚介を提携しているのが魚の棚商店街ですが、地元では「うおんたな」と呼んで親しまれています。

JR明石駅から南へ歩いて三分、東西の通りを中心に、早春の風物詩「くぎ煮」でお馴染みのいかに始まり、鯛、蛸、あなごなど旬の魚を中心に練



り製品や塩乾物の店が約百軒、元気な個店の集まりが活力のある商店街になっています。魚の棚の売りの一つは昼網です。正午を過ぎると昼網の入荷でピチピチ跳ねる魚が店頭に並び、威勢の良い呼び声に通りは活気づきます。産地と、消費者である魚の棚が近いので、昼のせりでも小売店が直接明石浦漁協から仕入れる珍しい流通形態なのです。勿論、すべてが明石ものというわけではありませんが。



商店街の中ほどには、お買い物途中の休憩スペース魚の駅があり、市民トイも用意されて、買い物客の便宜が図られています。

明石では、気軽に新鮮な旬の魚料理を堪能できる店も多く、手頃な値段で主婦や観光客がお昼ごはんをいただくことができます。魚の棚商店街内にもお好みの店が見つかるでしょう。

お買い物ついでに魚の棚でお腹を満たしたら、散策をかねて明石公園など周辺の観光スポットにも足を向けて

みてください。のんびりと街歩きが楽しめます。

明石原人とアカシゾウ

乙武 ヨシミ (S44理)

明石には南側を海に面した長い海岸線がみられる。海岸沿いに「浜の散歩道」が、明石川にかかる大観橋から西へ江井島まで続いている。サイクリングロードである。五月の連休、その道を山陽電車の藤江駅あたりから西へサイクリングした。左に明石海峡を眺めながら、こちよい風を受けながら、西へ。砂浜が続きパーベキューなどを楽しんでいる人たちも見えた。江井島浜の手前あたりに屏風ヶ浦といわれる小高い崖が海岸に迫っている。この近くは明石原人・アカシゾウの化石が発見されたところである。

昭和六年(一九三二)直良信夫は「明石原人」の腰骨を発見した。それまでに旧石器やゾウの化石を見つけて



いた。彼はこの人骨を旧石器時代の人類の化石と認めてもらおうべく東京へ向かった。彼の精神的支えとなり、生計を支えたのは妻の音であった。残念ながらその化石は戦火で焼失した。しかし石膏のレプリカが残された。一九三八年これを研究し「原人」とみなした東京帝国大学の長谷部言人によってニポナントロプス・アカシエンシスの通称が付けられた。原人か旧人かさらに新人つまり現生人か、の論争はその後も続いており、いまだにきちんとした結論はないという。昭和六十年はこの近くを発掘調査し六〇二万年前の木器や石器が出土している。現在は崩れた崖やその附近の平地は雑草が生え、直良が懸命に発掘した時のままのように思われた。

明石原人の発掘地より少し東に六百メートルにはアカシゾウの化石の発掘地がある。海岸にせまった崖である。ここも草に覆われている。昭和三五年紀川晴彦はここでゾウの牙を発見した。その後多くの化石が見つかった。今から約一二〇万〜一八〇万年前に西日本を中心に広く分布したものとされている。アケボノゾウとも呼ばれている。メタセコイアなどが茂るなかをゾウが群れていたのだろう。そこからさらに西へ走ると中尾の住吉神社。おりしも藤の花の盛りであった。

明石城と明石公園

橋本 陽江 (S50 理修化)

一六一七年、大坂夏の陣の功で明石周辺の十萬石を領した小笠原忠真(徳



川家康の外曾孫が將軍秀忠の命令で築いた城である。

「鶴の城」「喜春城」「錦江城」など優雅な名前で呼ばれてきた。城跡一帯は県立明石公園として広く県民に親しまれてきたが、兵庫県南部地震で被害を受けた後、修復・復旧工事が行われ、平成十六年には一帯が国の史跡に指定された。

ここが明治時代に公園として保存されるについては各地の例とは違った経緯を経ている。明治六年新政府の出した廃城令に従って城は一斉に売りに出され、全国の三百近い城が消える中で、明石城は旧藩士高橋房男が私財をはたいて買い取った。ところが、県は直後に高橋の落札を無効とし、取り壊しを計画した。地元は旧藩士を中心に結束して県と交渉し、城の櫓は残すという約束を取り付けた。しかし、明治十四年、県は約束を違え、各櫓を小学校の建築用材として払い下げ、大半を取り壊し、「巽櫓」と「坤櫓」だけが残り

た。県の理不尽に地元が異議を申し立て、城跡を公園にして保存したいと願ったところ、県は許可、類のない私設公園として誕生した。その後、明石都立公園、皇室の御料地を経て昭和四年、全域が払い下げられ、今日の県立公園となった。

大手門を入ると築城以来、太鼓門があり、人々に時刻を知らせる太鼓が置かれていたが平成元年「とき打ち太鼓」として再現された。

「各駅停車兵庫県」河出書房新社より引用



子午線の街明石

松尾 真理 (S55 理)

東経一三五度に位置する明石に子午線が通っていることはよく知られています。小学生の頃明石で太陽が南中する時刻を日本の正午と決めていると教えられた時、自分が中心のような誇らしい気持ちになったことを覚えていました。しかし現在の日本標準時は、明石ではなく小金井市にあるNICITの原子時計で作られています。いったいどの間にそのように変わったのでしょうか？これは一九六七年に一秒の長さの定義が改定されたことによります。それまでは一秒は南中から次の南中までの時間(視太陽日)を測定し、年間の平均太陽日から計算して割り出していました。つまり地球の自転や公転に基づく天文学的な定義が採用されていたのですが、原子放射の振動数に基づく量子力学的な定義に変えられたのです。このことにより、世界時(グリニッジ標準時)は国際原子時に移行されることとなりました。現在の世界標準時刻は、フランスにある国際度量衡局(BIPM)が世界時とこの国際原子時を調整した「協定世界時」によって決められています。なぜフランスですか？これはかつて経度0度の子午線の位置をグリニッジと競り合ったフランスのリベンジなのだそうです。時の番人になり、自国の標準が世界標準になるというのはその国の威信を示すことになるのでしょうか。日本標準時は他に譲ったものの、子午線の通る明石には多くの時計があり、過去から未来へ静かに時を刻み続けています。

平成19年度 佐保会兵庫県支部役員

役名	氏名	卒業年学部	住所
支 部 長	山本よしみ	(S33家食)	西 区
副 支 部 長	川口登美子	(S39家食)	川西市
事 務 局	鈴木 久子	(S37家食)	尼崎市
	寺田 翠	(S37文幼)	明石市
	三枝 瑤子	(S38文英)	中央区
	西池 節子	(S38理数)	北 区
名 簿 管 理	古山美智子	(S40理数)	西 区
ホ ー ム ペ ー ジ	高階 時子	(S48文国)	加東市
会 計 監 査	実方 充代	(S32文幼)	尼崎市
	藤岡 利子	(S38家被)	尼崎市
標 の 会	射延 瑞枝	(S42家被)	三木市
	秋里三和子	(S27文)	北 区
本 部 理 事	貴田 康乃	(S29家住)	西宮市
	山本よしみ	(S33家食)	西 区
本 部 評 議 員	鈴木 久子	(S37家食)	尼崎市
	川口登美子	(S39家食)	川西市
	瀬川 順子	(S41文英)	中央区
	大橋 節子	(S41文英)	須磨区
本 部 会 計 監 査	大橋 節子	(S41文英)	須磨区
佐保会学園理事	織部ミチ子	(S29家食)	兵庫区
佐保会学園評議員	秋里三和子	(S27文)	北 区
大学婦人協会役員	大林 冷子	(S33家被)	尼崎市

事務局だより

平成18年度事業報告

平成18年4月23日(日) 支部総会(於…舞子ピラ神戸)

8月24日(木) 地区リーダー会

11月1日(水) 第30号「支部だより」発行(西区担当)

11月4日(土) 「睦会」(於…舞子ホテル、昭和38年卒業生担当)

19年1月14日(日) 支部だより引きつき会

平成19年度事業計画

平成19年5月12日(土) 支部総会(於…舞子ピラ神戸)

8月23日(木) 地区リーダー会

11月1日(木) 第31号「支部だより」発行(明石市担当)

11月10日(土) 「睦会」(於…舞子ホテル、昭和39年卒業生担当)

20年1月14日(月) 支部だより引きつき会

平成18年度会計報告並びに平成19年度会計予算

支出の部

費目	平成18年度決算	平成19年度予算
本部会費	969,500	900,000
總會補助費	138,490	150,000
通信費	198,705	210,000
印刷費	37,075	45,000
交通費	57,710	80,000
事業費	名簿印刷費(積立)	100,000
	名簿送料	1,170
	支部便り印刷費	200,000
	睦会補助	50,000
	標の会	70,000
	リーダー会費	37,874
	最寄会補助	88,500
慶弔費	60,750	100,000
事務費	129,631	160,000
予備費	0	10,000
小計	2,139,405	2,256,000
次年度繰越	3,703,262	3,703,264
合計	5,842,667	5,959,264

収入の部

費目	平成18年度決算	平成19年度予算
会費	2,416,000	2,200,000
本部会費	969,500	900,000
支部会費	1,446,500	1,300,000
預金利息	2	2
本部より補助	55,440	56,000
雑収入	0	0
寄付	0	0
小計	2,471,442	2,256,002
前年度繰越	3,371,225	3,703,262
合計	5,842,667	5,959,264

資産内訳 (平成19年3月31日現在)

定額郵便貯金	1,850,000円
郵便貯金	13,553円
振替貯金	1,627,985円
現金	211,724円
合計	3,703,262円

名簿印刷用積立金 400,000円

別途友愛貯金 914,940円は平成18年5月22日に佐保会館修理募金に寄附いたしました。

編集後記

錦秋の候、ここに佐保会兵庫県支部だより三十一号をお届けすることができました。これも快くご寄稿下さいました方々、編集にあたたかいご助言を下さいました方々のおかげでございます。明石地区としては初めての仕事にとまどいながらも熱意をもって編集に携わり、和気藹々、親睦も図ることができましたことは大きな収穫でございます。不行届き、不備な点もありませんが、これからもよろしくご指導賜りますようお願い申し上げます(寺田)

編集委員 村田 寺田 乙武 橋本 丸岡 松尾